

# カラハナソウ

*Humulus lupulus var. cordifolius*

クワ科



カラハナソウ

## 名前の由来

唐花は模様に使われる花の形で、つるの上についた果穂をこれにたとえて名付けられた。漢字名：唐花草

魚類

底生動物

両生類  
爬虫類

トンボ

チョウ

樹木

草花  
(在来種)

草花  
(外来種)

哺乳類

鳥類  
(水辺)

鳥類  
(草原・樹林)  
ワシ・タカ

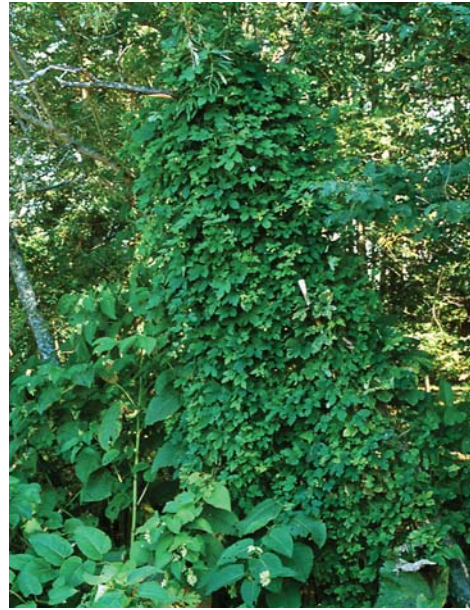
## 形態的特徴

つる性で茎や葉柄に下向きの刺があり、他のものに絡みつく。葉は対生して3~5に中裂し、両面に硬い毛がある。雌雄異株。花は淡緑色で、雌花はマツボックリにも似た球果状で長い柄があり、葉腋から垂れ下がる。雄花は小さく、枝先に円錐状にまとまってつく。

類似種：特に無い



カラハナソウ。雄花



カラハナソウ。  
ツルで伸び、他の植物を覆ってしまう



カラハナソウ。雌花



カラハナソウの実

## 生活サイクル

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
開花期					■							
結実期						■						

## 生育環境・分布

日当たりのよい河川敷や道端、林縁などに生育する。

分布：国外分布は、中国北部。

国内分布は、本州中部以北から北海道。

北海道内分布は、全道。

十勝地方では、日当たりのよい河川敷や道端、林縁などに普通に見られる。

## 生活史

開花時期：8～9月

開花までの年数：不明。

寿命：多年草。

## 他生物との関わり

クジャクチョウ、シータテハの幼虫の食草となっている。



カラハナソウの若芽



クジャクチョウ。幼虫時カラハナソウを食草とする

## 興味深い話

■小苞やがくにある黄色の細かい腺点はよい香りをはなち、苦味がある。この種の基本種のセイヨウカラハナソウはホップとしてビールの原料に用いられる。

■明治9（1876）年官営の「札幌麦酒（ビール）醸造所」が開設された時、ホップの代用にされたという。

■十勝地方のアイヌ語では、オフルコトウイペムンという。

■アイヌの人々は根を焼いたり煮たりして食べ、また果実をアワ飯にかけて発酵させ、糍（こうじ）を作ったという。



カラハナソウ



カラハナソウの実

## 配慮事項

特になし。

### 参考文献

「改訂版 牧野新日本植物圖鑑」牧野富太郎 北隆館 1989

「北海道植物図譜」滝田謙讓 自費出版 2001

「日本の野生植物 草本II」佐竹義輔・大井次三郎 他 平凡社 1982

「北見の蝶」木村辰正 北見市教育委員会 1994

「アイヌ植物誌」福岡イト子 草風館 1995

「知里真志保著作集 別巻I 植物編・動物編」知里真志保、平凡社、1976

魚類

底生動物

爬虫類  
両生類

トンボ

チョウ

樹木

（在来種）  
草花

（外来種）  
草花

哺乳類

（水辺）  
鳥類

（草原・樹林）  
鳥類  
ワシ・タカ